

しみん基金・KOBE NEWS



2025年3月号

認定NPO法人しみん基金・KOBE

発行日2025年3月

〒651-0083 兵庫県神戸市中央区浜辺通4丁目1-23-605

[TEL]078-230-9774 [FAX]078-230-9786 MAIL]kikin@stylebuilt.co.jp [HP]stylebuilt.co.jp/kikin

世の中、捨てたもんじゃない！

昨年末、審査メンバーの末席に名を連ねるご縁により「しみん基金・こうべ」の支柱とも言える草の根の市民活動支援における、2023年度採択事業の「成果報告会」に出席しました。そこでは、地域の課題や問題、また未来の可能性に対して地道な活動を粘り強く続けておられる方々から直に、活動成果のみならず、ご苦労や計画通りに運ばなかったことなども含めて、実に深いお話を伺うことが出来ました。

それは私にとって大変新鮮で、学びの刺激と共に、足元を見直し無関心を戒め、何よりも「世の中、捨てたもんじゃない！」という大きな感動を呼び覚ますものでした！

改めて「しみん基金・こうべ」の謳う「市民主役の市民社会形成」への思いを強くした貴重なタベとなりました。

岡野 亜紀子

(公財) 神戸市民文化振興財団
文化ホール事業部長

しみん基金・KOBEをご支援いただいている皆様へ感謝を込めて

こうべあいウォーク2025



今年も2025年1月12(日)に、27目の「こうべあい・ウォーク2025」を開催しました。30年ということで例年になく多くの方がJR鷹取駅近くの大国公園に多くの方にお集まり頂きました。ご記名とご寄付をいただき、挨拶などのあと、3班に分かれてふたば学舎までウォークスタートです。ゴールの二葉小学校(ふたば学舎)では今年もふたばのスタッフさんがぜんざいをご用意くださり、コープのご協力で、コープ職員さんが参加賞配布をセッティングしてお待ちくださっていました。参加者はスタッフを含め210名でした。

頂いたご寄付額は、経費を除いて当基金へのご寄付として、市民活動助成に活用させていただきます。ご寄付いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

- 【主催】 こうべあいウォーク2025 実行委員会、
NPO法人神戸まちづくり研究所、
認定NPO法人まち・コミュニケーション、
ふたば学舎、認定NPO法人しみん基金・KOBÉ
- 【協力】 近畿労働金庫、生活協同組合コープこうべ
※神戸マラソンフレンドシップバンクの寄付先です。
- 【収入】 募金 292,118
協力金 30,000
- 【支出】 印刷費 7,000
調理材料費 9,008
振込手数料その他 3,287

収支差額の302,823円をご寄付いただきました。

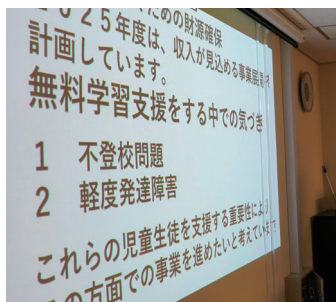
こうべあいウォーク



2023年度 助成事業成果報告会

2024年12月10日(火)/中央労働センター

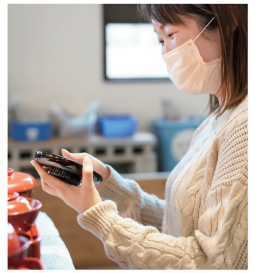
今年度は助成事業を実施せず顕彰事業としたため、黒田裕子賞&2024年顕彰事業贈呈式と同時開催としました。23年度助成の7団体のうち6団体が参加しました(1団体は体調不良により欠席)。団体からは達成できたことやできなかったこと、助成金依存体質から脱却するため、新たな方向性を見つけたことなど成果が報告され、スタッフ・マスコミ含め40名程度の参加者で、おにぎりを食べながらのミニ交流会となりました。



報告団体

1	(特活) 全国夜間中学ネット
2	(特活) ミャンマー-KOBÉ
3	任意団体たらぶ準備会
4	面会交流支援センターピロティ
5	多文化共生センターひょうご
6	まちの本屋上映実行委員会
特別枠	あすパ・ユース震災語り部隊

身近な能登支援！輪島塗漆器洗浄・販売



2月26日にKIITOで、能登の珠洲市のご家庭から、建物被害などに伴い捨てざるを得ない輪島塗漆器を譲り受け、ボランティアを募って漆器を洗浄しました。各ご家庭で昔から使われていた「お祭り御膳」と呼ばれる漆器です。

きれいになった漆器は、3月1日(土)にKIITOで開催される「オープンKIITO」にて販売しました。販売による収益から経費を差し引いた金額を、ボランティアキャンプすずを通じ、珠洲市の町内会へ寄付します。

ボランティア募集については当基金が活動促進窓口をしている神戸市のボランティアマッチングサイト「ぼらくる」で募集し、10名ほどの方が参加してくださいました。



輪島塗洗浄を通して能登への復興支援ができた

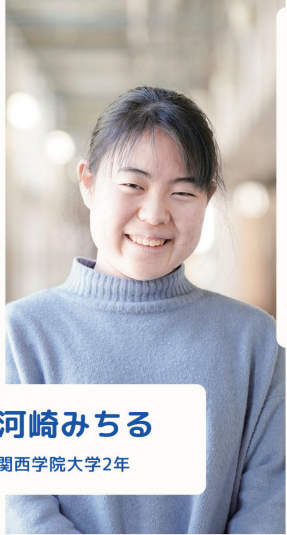
こんにちは。インターン生として活動しております、関西学院大学二年の河崎みちるです。

私は学生団体で災害支援に関するボランティアを行ってきたのですが、しみん基金・こうべが震災の復興支援に関わっていると知り、こちらでも私に合った活動ができるのではないかと考えインターンへの参加を決めました。

インターンの活動の中で印象的だったことは輪島塗漆器の洗浄で、洗浄を通して能登への復興支援を行うことができるという新たな気づきを得られたため非常に有意義なものとなりました。

復興事業や神戸の市民活動に関心をお持ちの方はぜひインターンに参加してみてください！

Shimin Kikin
インタビュー



河崎みちる
関西学院大学2年

おすすめ本 「神戸のなおちゃん」第1・2部合併号／第3部 池見宏子著

長年小学校教員を務められ、阪神・淡路大震災後は復興担当教員もされていた池見宏子さんが、震災30年にあたり、絵本「神戸のなおちゃん」を自費出版されました。

96年と99年に出版された第1部・第2部の合併号も新たに刷られ、今回作成された第3部とともに、当基金へ献本並びにご寄付くださいました。

「神戸のなおちゃん」1・2部では、担当した子どもたちをモデルとして、小学2年生で震災にあった体験や、4年後の小学校卒業時にまだ神戸に戻ってこれない友達のことなど、考えたり感じたりしたことが描かれていましたが、今回第3部では池見さんご自身の30年間の学びや活動されてきたことをまとめられました。活動の中で出会い、2000年に亡くなられた阪神大震災地元NGO救援連絡会代表の草刈賢一さんの言葉など、記しておきたいことを書き留めたと言われています。

能登半島の復興や事前復興につながる資料としてお勧めいたします。

第1・2部合併号ならびに第3部は当基金で販売しています。1冊500円です。ご購入をお願いいたします。



30年目のひとり言

「公転と自転」

戦中、戦後を生きた評論家でもあり執筆家でもあった山本七平（故人）が残した言葉に次の様なものがある。

「日本の組織は公転を止めて自転を始めよう」

組織の公転とは、組織が創られた目的に向かつて進んで行くことを指し、自転とは、組織が創られた目的に関係なく、組織の維持の為に動いていることを意味している。勿論自転することそのものが悪いという訳ではなく、公転と自転のバランスが重要だと考える。しかしながら、組織は、得てして自転のみに走りがちだ。太陽系に当てはめて考えると（宇宙の話）、太陽を中心に地球を始めとする惑星が公転し、自転を繰り返している。それぞれの公自転が絶妙なバランスを保つことによって、地球の環境が出来上がっていることは皆さんも承知されていると思う。社会も同じ、それぞれの組織が、公自転のバランスを保つていくことで、明るい未来が創られると考える。

阪神淡路大震災から30年が経過し、特定非営利活動促進法が施行されて27年になる。本法律が今、本当に公転の為に活かされているのか。NPO法人自体が自転の為にだけに活動していないか。それぞれをしつかりと検証し、未来を考える必要があるように感じている。

しみる基金・こうべ 専務理事

瀬戸口 仁三郎

ご寄付いただきました。



10日の成果報告会&黒田裕子賞・顕彰事業贈呈式実施日に、「あじさい基金」（代表：古川雅基氏）からしみる基金・KOBEへの寄付金の贈呈が行なわれました。「あじさい基金」は、市民活動を支援したいという神戸市役所職員有志でつくられた職域募金で、毎月の給与から2百円ずつ天引きで振替するしくみとして2003年に設立され、今回で7回目の贈呈式となりました。

賛助会員／寄付募集しています

※当基金へのご寄付と賛助会費は
税制優遇の対象です

※ふるさと納税でもご寄付いただけます。

お申し込みは電話・ファクス・メールなどでご連絡いただくか、HPをご参照ください。

編集後記

本年度も大変お世話になりました。しみる基金のお手伝いを始めてから約3年。あたたかいつながりが生む力の大きさを実感しています。これからも引き続き、皆さまの活動を支える架け橋となれるよう努めてまいります。（お）

編集 / 大竹 修

会員数とご寄付のご報告（2025年2月末）

正会員 個人23名 3団体
賛助会員 個人37名 7団体

寄付・募金合計金額 76万6千7百40円

寄付者・募金一覧（敬称略・順不同）

飛田雄一、中島秀男、中谷豊 白水士郎、
近藤マヤ子、岸桂子、佐々木妙子、高橋俊行、
瀬戸口延恵、高田佳代子、下條和樹、池見宏子、
宗秀典、
（有）神戸国際マーケット、ヤフービジネスサービス、
今津建設（株）、兵遊興福祉基金、
あいウオーク2025実行委員会、
（2024年12月～2025年2月）

※皆様方からの貴重なご厚志に感謝申し上げます。

※ご寄付、会費納入は、クレジット決済も
ご利用頂けますのでご活用ください。

当基金ホームページトップページの

「クレジットサポーター」からアクセスできます！